

入学時期:	4月生	学科:	教養重点科	コース:	1年	クラス	A(実務)
科目名:	経済・社会・時事					年次:	1年次
担当者:	山口 哲夫	単位:	2単位	授業時間:	30時間		

■授業概要・方法等

経済活動と市場，経済主体と経済循環，国民経済の大きさと経済成長，物価と景気変動，財政の働きと仕組み及び租税などの意義，金融の働きと仕組みについて，現実社会の諸事象を通して学習する。また，現代の日本社会が抱える諸問題について，諸資料から課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けることができるように学習する。

■学習・教育目標及び到達目標

学生が，この授業を履修することによって

- (1)市場メカニズムについて説明する
- (2)日本経済の景気変動について説明する
- (3)現代社会における諸問題について説明する ことができるようになる。

ひいては，高卒程度公務員試験に出題される経済・社会・時事の平均的な問題に対応できる知識習得ができるようになる。

■成績評価方法および基準

- ・定期試験 70%
- ・授業への取り組み 30%

合否	合格			不合格
評価	A	B	C	不可
評点	100～80	79～70	69～60	59～0

■教科書

- 『初級経済テキスト』(本校独自)
- 『初級社会・時事テキスト』(本校独自)
- 『初級経済過去問』(本校独自)
- 『初級社会・時事過去問』(本校独自)
- 『初級経済過去問解答』(本校独自)
- 『初級社会・時事過去問解答』(本校独自)

■授業計画の内容

時間割上の科目名:【経・社】

時 数		内 容	
1	～ 2	経済	第 1 編 経済と企業
3	～ 4		第 2 編 現代の市場
5	～ 7		第 3 編 国民所得と景気循環
8	～ 9		第 4 編 金融と金融政策
10	～ 12		第 5 編 財政と財政政策
13	～		第 6 編 貿易と国際収支
14	～		第 7 編 外国為替
15	～ 16		第 8 編 日本経済の発展
17	～		第 9 編 国際経済体制
18	～		第 10 編 経済学史
19	～	社会	第 1 編 現代の社会生活と青年
20	～ 21		第 2 編 労働問題
22	～ 23		第 3 編 社会保障
24	～		第 4 編 高齢化・人口問題
25	～ 26		第 5 編 環境資源問題
27	～	(同和)	第 1 編 同和問題
28	～ 30		過去問演習

■履修にあたっての注意事項

最後の 3 時間を除き、授業中に演習問題等を解く時間はないため、授業で進んだ範囲の過去問は各自で進めておくこと。

■その他

特になし。